

連合福島2025春季生活闘争

「ふくしま地域活性化シンポジウム」開催



主催者を代表して挨拶する
澤田精一 連合福島会長

生活を向上させ、新たなステージを定着させよう”“働くことを軸とする安心社会に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組もう”“「みんなの春闘」を展開し、集团的労使関係を広げよう”を基本スタンスとして賃上げを実現し、賃上げがあたりまえの社会のため、構成組織みんなで取り組む。」と挨拶した。

第一部は、福島大学 藤原 遥 准教授が「日本経済の現状と労働者の権利」、福島労働局 綿貫 直 労働基準部長が「2025年の労働環境について」と題しそれぞれ講演を頂いた。引き続き、第二部は、藤原准教授、綿貫部長両氏と、県経営者協会連合会の小野利廣会長、澤田会長の4人がパネリストとなり、福島民報社の五十嵐稔論説委員長にコーディネーターを務めて頂き、政労使による県内事業者の実態把握と、産業や組織の課題の共有を行い、適正な価格転嫁、賃金引上げに向けた考え方、人口流出対策・魅力ある職場づくりについて意見を交わした。澤田会長からは「物価上昇を上回る賃上げと格差是正に向けた取り組みを行う」と強調した。小野会長は、「昨年、福島県内の倒産が2010年以降最多となった。格差是正に取り組む一方で課題感もある」と話した。綿貫労働基準部長は「福島労働局においても、全ての世代の現在・将来の賃金・所得を増やすために業務改善助成金の周知や価格転嫁の取引適正化に取り組む」と語った。藤原准教授は「中小企向けの賃上げ促進税制や省力化投資補助金などの制度に使いづらさの課題がある」との考えを示した。

丁寧な講演と労働シンポジウムのパネリストを務めて頂いた藤原准教授、小野会長、綿貫基準部長の三名と、コーディネーターを務めて頂いた、五十嵐論説委員長に紙面を借りて、御礼を申し上げます。

連合福島は、2月7日（金）13時30分から「ラコパふくしま」（福島市）で、連合福島2025春闘「ふくしま地域活性化シンポジウム」を構成組織・地区連合、また経済団体約100名の参加も得ながら開催した。

冒頭、澤田精一会長は、「2025年も春闘が始まり賃上げがあたりまえの社会を目指す未来づくり春闘がスタートした。昨年の春闘を振り返ると、皆様の粘り強い真摯な交渉により、33年ぶりに5%を超える高い水準での賃上げが実現でき、ステージの転換にむけた大きな一歩を踏み出すことができた。しかし、賃上げが実現したものの生活の質が向上したと実感した人は数少なく、個人の消費が低迷している。これは、報道でもありとおり3年連続で続いている実質賃金が減少していること、物価高が家計を圧迫していること、中小企業を中心に適切な価格転嫁、適正取引が進んでいないことが原因にあげられる。

2025年の春闘では“みんなの賃上げでみんなの生



福島大学 経済経営学類
准教授 藤原 遥 様



福島労働局 労働基準部
部長 綿貫 直 様



会場の皆さん



パネラーの皆さん